
ドッペルゲンガーさん

雨虹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドッペルゲンガーさん

【Nコード】

N5934Y

【作者名】

雨虹

【あらすじ】

全体的に暗い内容となっております。

私は今をときめくアイドル「リナ」にソックリだ。顔だけじゃない。体型、仕草、声までソックリだ。周りの人にもよく言われる。

最初にTVで「リナ」を見た時、似てるとは思わなかった。ただ、ある時自分の顔と一致する瞬間があった。

「あれ？私リナに似てる…？っていうか私？」

何故かわからないけど、もの凄く気持ち悪くなった。この感情、よくわからない。だって

世間では大人気、TVでよく見る「リナ」に似てたら、普通喜ぶはずなのに。

今日もTVをつけると「リナ」がトーク番組に出ていた。

リナ「私、男の子に告白されても嘘だって思っっちゃうんですよ！」

司会者「何で？」

リナ「だって私、自分で可愛いって思った事ないですもん…」

共演者「そんな事ないよ！可愛いじゃない！」

ハッ！何言ってんだか。：でも、こういうマイナス思考なところ、私に似てる。まさか性格まで似てるのかな？

たまにこんな事思ったりする。

もし私がアイドルを目指して頑張っていたら、「リナ」のようにTVに出れていたのだから？

うか？大勢の方に愛される存在になれたのだろうか？私はスーパーレジのパート。「リ

ナ」はアイドル。この差は何？別にアイドルになりたかったわけじゃない。今の仕事が嫌いなわけじゃない。

ただ：何かムカつく。

ある日友達のケイに言われた。

ケイ「都子さ、東京の街とか歩いたらリナに間違えられてサインねだられたりするんじゃない？秋葉原とかさ。」

冗談じゃない。そんな事したくもないし、されたくもない。とりあえず私は愛想笑いで返した。

ケイ「もしかしてリナに似てるって言われるの嫌？何で？可愛いじゃんあの子。」

可愛いなんて思えない。だって、私にソックリなんだよ？嫌なものは嫌なものだね。ケ

イは不思議そうに首をかしげていた。

数日後、私はある男友達の隆に近所の公園に呼び出された。隆とは前のバイトが一緒に、もう二年ぐらいの付き合いになる。二人で遊ぶ事もあった。

隆「実は前から好きだったんだ。」

そんな隆からこんな事言われるなんて夢にも思わなかった。ずっと言いたい事も言い合える仲だと思ってたから、凄くびっくりした。

ただ、私は嬉しくない。だって、隆は「リナ」のファンだ。「リナ」がTVによく出るようになったのが半年前。故に隆が本当に好きなのは「リナ」であり、私を好きになったのは「リナ」の存在あってこそ。そうとしか思えなかった。そんな事を思うと、無性に悲しくなった。

「隆とはずっと友達でいたい。」

そう答えるのが精一杯だった。

「リナ」さえ居なければこんな辛い思いをせずに済んだのに。これから先ずっと私には「リナ」が付きまとうだろう。そして、これから先も私より輝く存在なのだろう。

(後書き)

いいオチ見つかったら続編やりたいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5934y/>

ドッペルゲンガーさん

2011年11月18日04時51分発行